令和８年度　病害虫発生予報　第８号

令 和 ８ 年 １ １ 月 １ ３ 日
千葉県農林総合研究センター長

Ⅰ　向こう１か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（＋）は多発要因、（－）は少発要因であることを示す。また、【　】内の数値は左側が 10 月下旬～11 月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去 10 年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして 40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側 20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記３者の外側 10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、３ページの「２　個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

千葉県総合防除計画（令和６年３月版）

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 （10 月下旬～11 月上旬の発生予察結果及び気象予報等）	※
冬春キュウリ	うどんこ病	並	発病葉率：並【4.20%/8.95%】 気象予報：日照時間並か少（－）	37
	褐斑病	並	発病葉率：並【0.00%/0.02%】 気象予報：日照時間並か少（＋）	38
	灰色かび病	やや多	果実発病度：多【0.20/0.00】（＋） 気象予報：日照時間並か少（＋）	38
	べと病	やや少	発病葉率：やや少【0.00%/1.01%】（－） 気象予報：日照時間並か少（＋）	39
	疫病	やや多	発病株率：多【0.40%/0.00%】（＋） 気象予報：日照時間並か少（＋）	－
	斑点細菌病	やや多	発病葉率：多【1.60%/0.00%】（＋） 気象予報：日照時間並か少（＋）	39
	アブラムシ類	やや多	成幼虫寄生株率：多【1.60%/0.08%】（＋） 気象予報：日照時間並か少（－）	40
	アザミウマ類	やや多	成幼虫寄生株率：やや多【0.80%/0.16%】（＋） 気象予報：日照時間並か少（－）	39
	オンシツコナジラミ	やや少	成虫寄生株率：やや少【0.80%/4.22%】（－） 気象予報：日照時間並か少（－）	40
	タバココナジラミ	並	成虫寄生株率：並【5.60%/8.36%】 気象予報：日照時間並か少（－）	
冬キャベツ	黒腐病	多	発病度：多【14.20/1.52】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並	36
	菌核病	やや多	発病株率：並【0.00%/0.00%】 本年４月発病株率：やや多【5.33%/1.98%】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並	36

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 （10月下旬～11月上旬の発生予察結果及び気象予報等）	※
秋冬ネギ	さび病	やや多	発病度：多【0.10/0.01】（＋） 気象予報：降水量並	34
	べと病	やや多	発病株率：並【0.00%/0.16%】 ねぎべと病なび：12月の推定発生確率69.4%（＋） 気象予報：降水量並、日照時間並か少（＋）	34
	ネギアザミウマ	少	成幼虫寄生株率：少【5.20%/32.44%】（－） 気象予報：降水量並	34
	ネギコガ	多	被害株率：多【1.20%/0.12%】（＋） 気象予報：降水量並	35
冬レタス	菌核病	並	発病株率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（＋）　降水量並	41
	灰色かび病	並	発病株率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（＋）　降水量並	42
イチゴ	うどんこ病	やや多	発病株率：やや多【6.13%/2.82%】（＋） 気象予報：日照時間並か少（－）	42
	灰色かび病	多	発病株率：多【0.27%/0.00%】（＋） 気象予報：日照時間並か少（＋）	43
	アブラムシ類	やや少	成幼虫寄生株率：やや少【2.13%/3.68%】（－） 気象予報：日照時間並か少（－）	44
	ハダニ類	やや少	成虫寄生株率：やや少【4.00%/9.32%】（－） 気象予報：日照時間並か少（－）	45
カーネーション	アザミウマ類	並	被害株率：並【9.60%/10.06%】 気象予報：日照時間並か少（－）	－
	ハダニ類	やや多	成虫寄生株率：やや多【6.40%/3.18%】（＋） 気象予報：日照時間並か少（－）	－
野菜・花き共通	コナガ	少	10月フェロモントラップ誘殺数：少【0.21頭/1.00頭】（－） 10株当たり寄生幼虫蛹数(冬キャベツ)：並【0.00頭/0.02頭】 被害株率（施設ストック）：並【0.80%/2.40%】 気象予報：気温高（＋）　降水量並	45
	ハスモンヨトウ	並	10月フェロモントラップ誘殺数 ：やや少【22.67頭/32.55頭】（－） 被害株率　（秋冬ネギ）：並【0.00%/0.24%】 幼虫寄生株率（夏秋トマト）：並【0.00%/0.20%】 〃　（冬春キュウリ）：並【0.00%/0.00%】 〃　（冬キャベツ）：並【0.00%/0.00%】 〃　（冬レタス）：並【0.00%/0.04%】 〃　（イチゴ）：並【0.53%/1.04%】 〃　（カーネーション）：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（＋）　降水量並	46
	シロイチモジヨトウ	並	10月フェロモントラップ誘殺数：並【2.33頭/3.09頭】 被害株率（秋冬ネギ）：並【0.80%/4.40%】 幼虫寄生株率（カーネーション）：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（＋）　降水量並	46

＊１　フェロモントラップ誘殺数：１日当たりの誘殺数

1　防除に関する措置（共通）

（１）病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
（２）発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
（３）害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
（４）病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2　個々の病害虫に関する防除上の注意事項

（１）灰色かび病（冬春キュウリ）

令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（きゅうり）を参照する。

（２）疫病（冬春キュウリ）

令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（きゅうり）を参照する。

（３）斑点細菌病（冬春キュウリ）

令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（きゅうり）を参照する。

（４）アブラムシ類（冬春キュウリ）

令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（きゅうり）を参照する。

（５）アザミウマ類（冬春キュウリ）

令和７年度病害虫発生予報第５号Ｐ４～５「これから注意を要する病害虫」を参照する。

（６）黒腐病（冬キャベツ）

令和８年度病害虫発生情報第３号「キャベツ黒腐病の発生状況について」を参照する。

（７）菌核病（冬キャベツ）

令和７年度病害虫発生予報第７号内の「これから注意を要する病害虫」を参照する。

（８）さび病（秋冬ネギ）

令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（ねぎ・わけねぎ）を参照する。

（９）べと病(秋冬ネギ)

これから注意する病害虫（５ページ）を参照する。

(10) ネギコガ（秋冬ネギ）

令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（ねぎ・わけねぎ）を参照する。

(11) うどんこ病（イチゴ）

令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（いちご）を参照する。

(12) 灰色かび病（イチゴ）

令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（いちご）を参照する。

(13) ハダニ類（カーネーション）

高温・乾燥条件により増殖が早まり、急激に密度が高まる。薬剤散布は、寄生の多い下位葉や葉裏まで薬液が届くよう丁寧に行う。令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（カーネーション）を参照する。

Ⅱ　これから注意を要する病害虫

ネギ　べと病

病原菌は卵菌類の一種で、ネギ属に感染する。当課で行っている巡回調査では2021年以降の発生が見られていなかったが、「ねぎべと病なび」※では、巡回調査地点付近のアメダス地点で９月までに感染好適条件に合致する日が４回出現している。また、12月時点での推定発生確率が69.4%と、防除の指標50%以上で発病リスクが高くなっている。

※　「ねぎべと病なび」は、千葉県が開発した、８月の感染好適条件からネギのべと病が感染しやすい日を算出して防除の要否・タイミングを教えてくれるエクセル形式の支援システム

＜主な発生部位と症状、発病条件及び伝染経路＞



写真　病斑
（左 初期、右　分生子）

葉身に黄白色の病斑(写真左)ができ、湿度が高い環境では病斑に灰白～灰褐色の薄いカビ(写真右)が生える。その後、カビは暗緑色又は暗紫色になる。症状が進むと葉身全体が黄白色あるいは灰白色にしおれて枯死する。

日平均気温15℃以上20℃以下で、多湿が続くと感染しやすい。また、日照が少ない気象条件は感染しやすい環境となる。肥料不足では発病が助長される。

残存した被害残さや、土中の卵胞子が発芽して感染する。また、病斑上に生じた分生子が飛散することで感染が拡大する。

＜防除対策＞

１　耕種的・物理的防除

（１）症状が出た古い葉や枯れ葉、被害残さ、被害株はこまめに取り除き、速やかにほ場外へ持ち出し処分する。

（２）ほ場が滞水しないように明渠を掘っておく。

（３）肥切れを避けて、適切な肥培管理に努める。

２　薬剤防除

（１）早期発見に努め、発生初期から計画的に薬剤散布する。

（２）薬剤の調整時には必ず展着剤を加用する。ただし、メジャーフロアブル及びアミスター２０フロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤や濡れ性を高める展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤の加用にあたって事前にその適否を確認する。

（３）ＦＲＡＣコードが異なる薬剤をローテーションで選択する。

表　ネギのべと病に対する主な登録農薬（令和８年 11 月４日現在）

ＦＲＡＣコード※1	薬剤名	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤 使用回数
３+Ｍ３	テーク水和剤	600倍	収穫14日前まで	３回以内
Ｍ３+４	リドミルゴールドＭＺ	1,000倍	収穫14日前まで	３回以内
７+Ｍ５	ベジセイバー	1,000倍	収穫14日前まで	２回以内
		16倍※2		
11	メジャーフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	３回以内
11	アミスター２０フロアブル	2,000倍	収穫３日前まで	４回以内
		16倍※2		
21	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫３日前まで	４回以内
40	フェスティバル水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	３回以内
40	レーバスフロアブル	2,000倍	収穫７日前まで	２回以内
45+40	ザンプロＤＭフロアブル	1,500～ 2,000倍	収穫14日前まで	３回以内
		16～24倍※2		
		８倍※3		
Ｍ１	Ｚボルドー	500倍	発病前～発病初期	－
Ｍ１	ドイツボルドーＡ	500～1,000倍	－	－
Ｍ５	ダコニールアルファ	2,000倍	収穫14日前まで	３回以内
Ｍ５	ダコニール１０００	1,000倍	収穫14日前まで	３回以内
Ｐ７	アリエッティ水和剤	800倍	収穫３日前まで	３回以内

※１　ＦＲＡＣコードとは、殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。

※２　無人航空機による散布の場合。散布液量は1.6Ｌ/10ａ

※３　無人航空機による散布の場合。散布液量は0.8Ｌ/10ａ

注　農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

Ⅲ　その他の情報

県内調査ほ場における斑点米発生状況

県内70地点のほ場で採集した玄米について、ふるい目幅1.70mmで調製したのち、斑点米率及び被害部位を調査した。その結果、斑点米率の本年値は0.20%※1（平年値0.31%）で、過去10年と比較すると９番目であり、やや少の発生であった（図１）。

また、被害部位構成割合の全県平均値は、基部加害型の割合が最も高く、次いで頂部加害型、側部加害型、無差別加害型の順であった（図２）。基部加害型は主にイネカメムシ、頂部加害型は主にカスミカメムシ類※2、側部加害型は主にイネカメムシを除く大型斑点米カメムシ類※3による加害で発生することが知られている（表、写真）。地域別にみると、東葛飾、千葉、夷隅、香取、安房地域では、基部加害型の割合が高く、イネカメムシが優占種であることが推測された。長生、海匝地域は頂部加害型、君津地域は側部加害型の割合が高く、それぞれカスミカメムシ類、イネカメムシ以外の大型斑点米カメムシ類が優占する傾向がみられた。

※１　本調査は、各ほ場の玄米を規格検査用タテ目ふるい（直径34ｃｍ、1.70mm×16mm）を使って同一条件で調製しているため、ライスセンターより選別精度が相対的に低くなりやすい。また、一部の調査地点では斑点米の発生が多く、調査ほ場の生産者が調製した玄米よりも値が高めに反映される傾向がある。

※２　カスミカメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）

※３　大型斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、イネカメムシ、ミナミアオカメムシ）

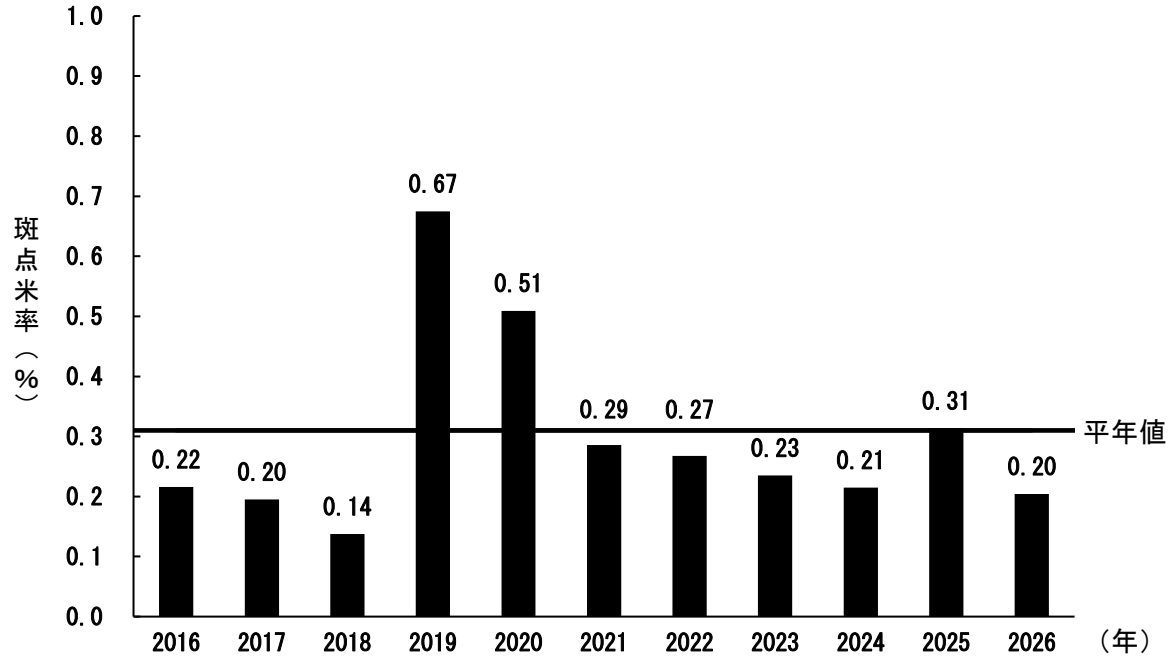


図１　年次別の斑点米率（県内約 70 地点の平均値）

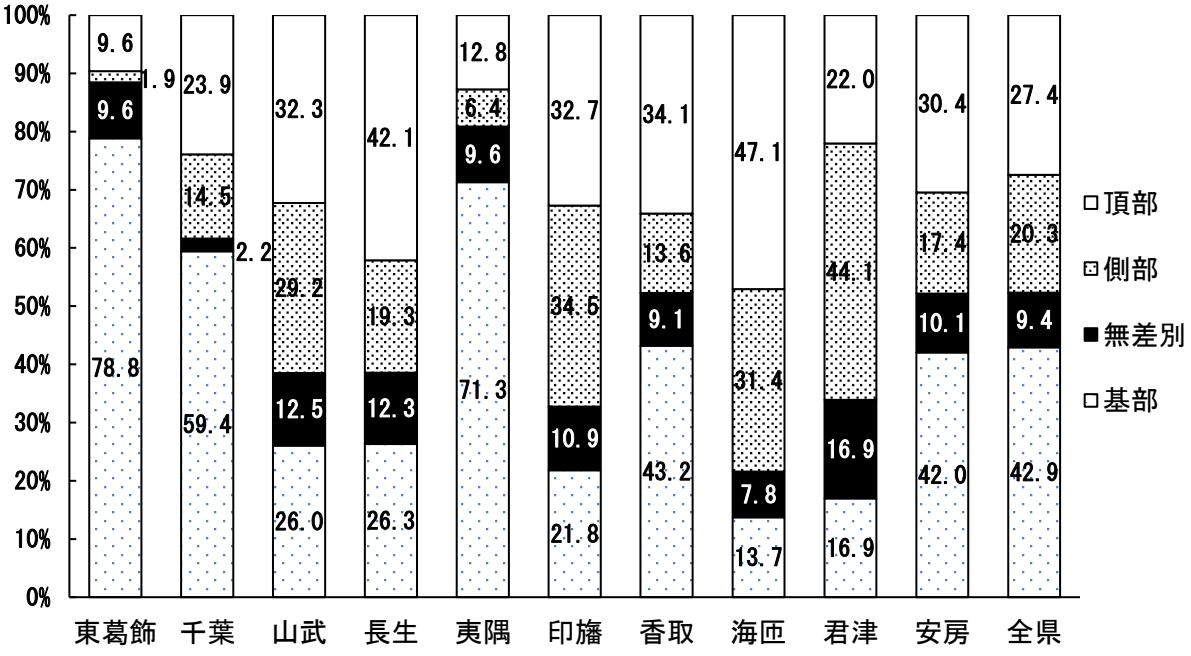
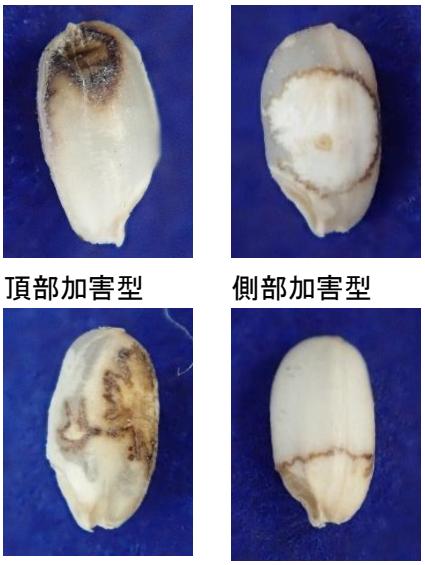


図２　本年の地域別の被害部位構成割合（各地域７地点の平均値）

表　被害部位から推定される斑点米カメムシ類

被害部位	推定されるカメムシ種
頂部	カスミカメムシ類
側部	クモヘリカメムシ
	シラホシカメムシ類
	ホソハリカメムシ
	ミナミアオカメムシ
	カスミカメムシ類
無差別	シラホシカメムシ類
	ホソハリカメムシ
	ミナミアオカメムシ
基部	イネカメムシ



頂部加害型　側部加害型

無差別加害型　基部加害型

写真　被害部位別の斑点米

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：10 月下旬～11 月上旬、果樹：10 月中旬～下旬、花き：10 月下旬）

作物名（調査地域）	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
夏秋トマト（山武）	灰色かび病	発病株率（%）	28.00	5.22	0.00	
		発病果率（%）	2.39	0.06	0.00	
		果実発病度	4.00	0.56	0.00	
	すすかび病	発病株率（%）	31.20	62.74	44.80	
	うどんこ病	発病株率（%）	13.60	1.98	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率（%）	3.60	12.03	21.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率（%）	0.00	16.82	3.20	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率（%）	0.80	12.32	25.60	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.20	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率（%）	4.00	4.58	0.00	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	0.00	367.88	85.24	頭/30日
	アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	0.00	32.30	0.71	頭/30日
冬春キュウリ（山武）	うどんこ病	発病葉率（%）	4.20	8.95	0.00	
	褐斑病	発病葉率（%）	0.00	0.02	0.00	
	べと病	発病葉率（%）	0.00	1.01	0.40	
	疫病	発病株率（%）	0.40	0.00	0.00	
	斑点細菌病	発病葉率（%）	1.60	0.00	0.00	
	ワタアブラムシ	成幼虫寄生株率（%）	1.60	0.08	0.00	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率（%）	0.80	4.22	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率（%）	5.60	8.36	12.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率（%）	0.80	0.16	1.60	
冬キャベツ（海匝）	黒腐病	発病度	14.20	1.52	0.00	
	菌核病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.02	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ（山武、長生）	黒斑病	発病度	1.20	2.38	1.10	
	さび病	発病度	0.10	0.01	0.00	
	べと病	発病株率（%）	0.00	0.16	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	17.00	23.90	38.60	
		成幼虫寄生株率（%）	5.20	32.44	43.60	
	ネギアブラムシ	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.76	0.00	
	ハスモンヨトウ	被害株率（%）	0.00	0.24	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率（%）	0.80	4.40	11.20	
	ネギコガ	被害株率（%）	1.20	0.12	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	1.40	5.92	2.00	
冬レタス（安房、君津）	灰色かび病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	腐敗病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	ネキリムシ類	被害株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	モモアカアブラムシ	成幼虫寄生株率（%）	1.20	0.04	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.04	0.00	
イチゴ（山武、海匝、安房）	うどんこ病	発病株率（%）	6.13	2.82	0.27	
	炭そ病	発病株率（%）	0.00	0.40	0.00	
	灰色かび病	発病株率（%）	0.27	0.00	0.00	
	ワタアブラムシ	成幼虫寄生株率（%）	2.13	3.68	6.13	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.53	1.04	1.07	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率（%）	1.60	0.00	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生株率（%）	4.00	9.32	4.00	
ナシ（県内全域）	黒星病（秋型病斑）	発病葉率（%）	0.97	1.53	1.85	
	うどんこ病	発病度	0.92	3.29	1.52	

作物名（調査地域）	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
温州ミカン（安房）	そうか病	果実発病度	0.00	0.06	0.00	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	4.42	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生果率（%）	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率（%）	0.00	6.12	4.20	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（%）	0.00	0.20	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率（%）	0.00	0.18	0.00	
	カメムシ類	被害果率（%）	0.00	0.04	0.00	
		払落虫数	0.00	0.28	0.00	
ビワ（安房）	灰斑病	発病葉率（%）	2.00	3.74	1.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（%）	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.23	0.00	
カーネーション（安房）	萎凋症	発病株率（%）	0.80	0.24	0.00	
	立枯病	発病株率（%）	0.00	0.68	0.00	
	アザミウマ類	被害株率（%）	9.60	10.06	9.60	
		黄色粘着トラップ誘殺数	1.50	6.65	10.55	頭/30日
	ナミハダニ	成虫寄生株率（%）	6.40	3.18	0.00	
	オオタバコガ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.56	0.80	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	その他ヨトウムシ類	幼虫寄生株率（%）	0.00	2.00	0.00	
施設ストック（安房）	菌核病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病株率（%）	0.00	0.32	3.20	
	コナガ	被害株率（%）	0.80	1.82	2.40	
		幼虫寄生株率（%）	0.80	0.16	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	

トラップ月間誘殺数（10 月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備　考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.00	0.16	0.06	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.00	0.00	0.00	
	コナガ	海匝、安房	0.21	1.00	0.30	
	ハスモンヨトウ	県内全域	22.67	32.55	32.92	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	2.33	3.09	7.36	
	オオタバコガ	県内全域	1.88	3.69	5.15	
	タバコガ	県内全域	0.45	0.67	0.83	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	0.56	1.45	0.91	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.00	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	0.56	1.45	0.91	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	4.96	1.71	1.38	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	3.82	4.20	3.66	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	8.79	5.90	5.03	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	3.69	1.63	0.53	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.37	0.98	1.65	
	クサギカメムシ	〃	0.39	0.45	0.68	
	カメムシ類	〃	4.45	3.06	2.86	
	マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）	〃	0.12	0.21	0.11	

＊　黄色粘着トラップ誘殺数は調査日数を 30 日に換算した値

○気象予報

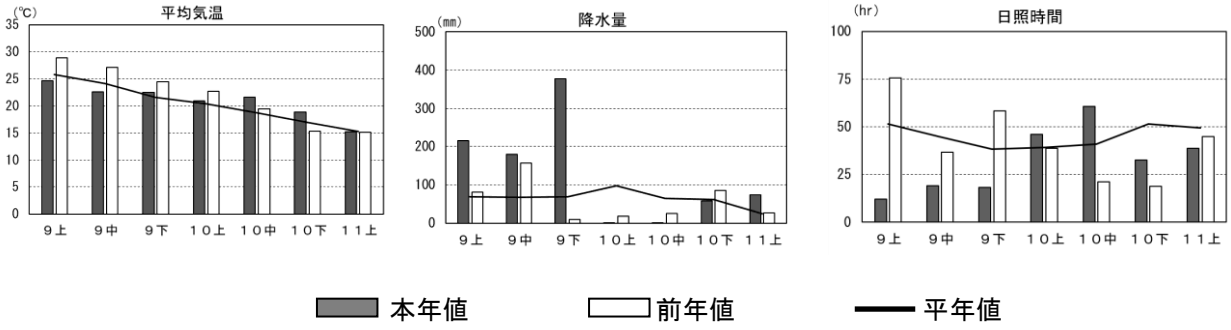
１１月１２日気象庁発表
関東甲信地方における向こう１か月間の確率（%）

要　素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気　温	10	40	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

出典：気象庁ホームページ

向こう１か月間の各気象要素の平年値
（11月14日～12月13日）

要　素	千葉	銚子	館山
気　温（℃）	11.2	12.2	11.5
降水量（mm）	84.3	128.3	130.1
日照時間（hr）	150.6	140.4	147.4



過去２か月の気象概況（アメダス千葉、銚子地方気象台提供）

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例　農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
メールの配信サービスも実施しています（要事前登録）
https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/

・次回の発行予定は令和８年１２月１６日です。
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・県内で栽培される主要な農作物に発生する病害虫や雑草を
防除するための指針が千葉県 HP で公開されています。
https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/bojoshishin.html

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
https://pesticide.maff.go.jp/

問合せ先
千葉県農林総合研究センター病害虫防除課
〒266-0014　千葉市緑区大金沢町 180 番地 1
TEL 043(291)6077　FAX 043(226)9107
E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp